

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】

令和 4 年 7 月 26 日

評価対象事業		評価者	障害福祉課長 竹内 雅貴	
健福-32	障害者社会参加促進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	障害福祉課
		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	障害者等
意図	在宅の障害者等の社会参加及び外出を支援するため。
効果	障害者等の社会参加の促進を図る。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

・聴覚障害者等の依頼により、手話通訳者等を派遣し、聴覚障害者等の情報保障を図った。
・手話通訳者を週5日窓口に配置した。
・手話講習会入門、基礎、中級、上級講座等を開催した。
・障害者ふれあいフェスティバルは新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中止した。
・障害者が自ら運転する自動車を改造する場合の自動車改造費助成を行った。
・障害の程度が1級から4級までの下肢・体幹・内部障害、あるいは1級の上肢の障害を有する方からの自動車運転訓練費の助成は申請がなかった。
・在宅の重度障害者に福祉タクシー利用券・福祉自動車燃料費助成券等を交付し、利用料等の助成を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	手話通訳者等派遣事業	手話通訳者等派遣等報償費、業務委託、費用弁償等	手話通訳者・要約筆記者の派遣件数(件)	174 / 1,088	250 / 3,113	250 / 3,111	69.60%
02	手話講習会等開催事業	手話講習会等開催業務委託	手話講習会等修了者数(人)	30 / 1,772	60 / 1,773	60 / 1,773	50.00%
03	障害者ふれあいフェスティバル事業	障害者ふれあいフェスティバル開催負担金	-	- / 0	- / 0	- / 0	
04	自動車改造費等助成事業	身体障害者自動車改造費助成費	身体障害者自動車改造費助成件数(件)	3 / 300	2 / 200	4 / 400	150.00%
05	障害者タクシー料、自動車燃料費等助成事業	障害者タクシー券等事務手数料、印刷製本費	福祉タクシー券利用率・自動車燃料券利用率(利用者数/交付枚数)(%)	58.44%・87.69% / 100%/100%	100%/100%	100%/100%	58.44% 87.69
06	情報保障(点字)事業	点字版等作成委託、情報保障消耗品費等	-	- / 349	- / 1,000	- / 2,652	
07	一般事務経費	消耗品費、緊急通報装置維持修繕料	-	- / 95	- / 126	- / 135	
08				/	/	/	
09				/	/	/	
10				/	/	/	
		財源内訳	国県支出金	5,067 /	2,745	4,450	
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	27,540 /	41,275	38,292	
		事業費の合計(千円)		32,607 /	44,020	42,742	
		人件費(千円)		19,291		20,159	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.0	2.2	2.2			
会計年度任用職員	2.0	2.0	2.5			

## 5 評価結果

### (1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	手話通訳者等派遣事業	当事業は利用者からの申請に基づき、手話通訳者等の派遣調整を行う事務のため、利用者側の状況に左右されるものと考ええる。目標値(当初見込んだ件数)までの依頼はなかった。	派遣により聴覚障害者の生活に必要な様々な場面でコミュニケーション支援に寄与した。	-
02	手話講習会等開催事業	講習会修了人数は30名と目標比50%と未達であった。手話奉仕員志望者の養成講座の入口である初級・基礎講座が全40回と長期間なこと、修了要件が8割の出席を求めていることが要因と考えられる。目標には届かなかったものの、新たに30名の修了者が今後、聴覚障害者の社会参加への一助となることが期待される	手話の普及を図り、通訳者を増やすことで、聴覚障害者の社会参加に寄与した。	-
03	障害者ふれあいフェスティバル事業	令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見送った。	障害者との交流、市民への啓発の機会となる必要性が認められる事業である。	-
04	自動車改造費等助成事業	障害者が自ら運転する自動車の改造費等への助成は、利用者側からの申請によるものであるため、目標設定にはなじまない一面もあるが、令和3年度は目標2件に対して3件と目標値を上回った。	障害があっても自分で車を運転したい障害者の自立及び社会参加を支援する重要な事業であり、当事業が、障害者の社会参加に繋がっているものとする。	-
05	障害者タクシー料、自動車燃料費等助成事業	福祉タクシー券の利用率は年々低下し、自動車燃料券の利用率は90%台の高水準で推移している。新型コロナウイルス感染症の影響により、外出控えや外出時に自家用車を利用したことが一因ではないかと考える。	障害者の社会参加及び外出機会を増やすことに寄与した。	利用者の利便性向上のために契約事業者数の増加が課題となっている。
06	情報保障(点字)事業	条例に基づき、障害者のニーズに即して、その都度、点字版等を作成するもので、指標の設定には適さない。	視覚障害者の情報取得と社会参加に寄与した。	新条例制定に伴う予算の確保等が課題である。
07	一般事務経費	消耗品費などの共通的な経費で指標の設定に適さない。	-	-
08				
09				
10				

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない	
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		1 実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入	△-2 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである	
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している	
			協働実施済の場合のパートナー	手話講習会実行委員会 要約筆記講習会実行委員会

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 改善・変更	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休止・廃止
この事業は、聴覚障害者へのコミュニケーション支援や、タクシー券支給などの各種制度により、障害児者の社会参加を支援しているものである。今後も現行制度の維持に努め、障害者の社会参加を支援していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	手話通訳者・要約筆記者の派遣件数						単位	回
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値	設定なし	250	250				
	実績値	171	174					
	達成率	-	69.6%					

指標(単位)	障害者福祉タクシー券利用率(利用枚数/交付枚数)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値	設定なし	100	100				
	実績値	63.4	58.4					
	達成率	-	58.4%					

指標(単位)	障害者福祉自動車燃料券利用率(利用枚数/交付枚数)						単位	%
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
障害者等の社会参加及び外出支援の促進を図るため。	目標値	設定なし	100	100				
	実績値	96.5	87.7					
	達成率	-	87.7%					

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	福祉タクシー利用券等支給額(金額×枚数)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	逗子市	横須賀市	
タクシー券	24,000円	28,800円	24,000円	21,600円	48枚×初乗運賃分	未実施	21,600円(血液透析患者は32,400円)	
ガソリン券	18,000円	未実施	24,000円	未実施	未実施	未実施	21,600円(血液透析患者は32,400円)	

比較事項	手話通訳者の窓口設置状況							
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	逗子市	横須賀市	
他市実績	週5日	週5日	週5日	週5日	週5日	週5日	週5日	
	8時30分～17時	8時30分～17時	9時～16時	8時30分～17時	8時30分～17時15分	8時30分～17時	8時30分～17時15分	

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	福祉タクシー利用券は多くの近隣市で実施をしているが、自動車燃料費助成券は未実施の近隣市が多い。本市では自動車燃料費助成券の利用率が87.7%と高く、障害児者の社会参加促進や外出支援に対する選択肢を広げ提供ができている。 手話通訳者の窓口設置については、平成30年度の設置時間は半日であったが、令和元年度には設置時間を拡充し、他市と同等の設置となった。また、令和2年度から月15日以内勤務の会計年度任用職員が2名勤務する体制をとり、今後も継続していく。
--------------------------	--